

1. 「見た目や体格に関するもの」 (大学生 / 女性の方からのエピソード)

自分の「見た目」について悩んだこと、一度はあるのではないのでしょうか？

電車やウェブサイトの広告には、ダイエットや脱毛を謳うものも多いですね。毛がない、細い体型を目指して色々頑張ってみても、SNSでは「健康的な方が好き」というコメントも多く、何を目指して頑張ればいいのかわからなくなってしまふことも。

最近では、メンズメイクをする人や高身長であることを気にしない女性、すっぴんで外に出る女性なども増えてきました。それでも、他人の心ない言葉や行動に傷ついてしまうことも少なくないと思います。たまには、SNSやネットから離れることも重要かもしれません。

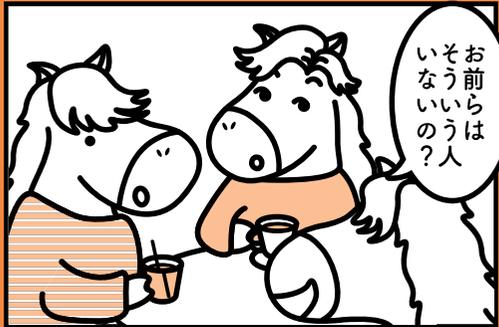
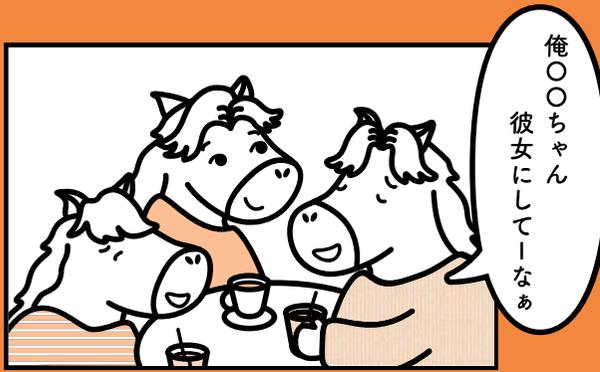


2. 「恋愛指向」 (大学生 / ノンバイナリーの方からのエピソード)

クラスメイトとの会話や飲み会の席などでこのような恋愛に関する話で盛り上がったことはありませんか？

もちろん全員が楽しめていればいいのですが、このエピソードの2人のように中には異性愛が前提となっていることや、そもそも恋愛感情を抱くことが当たり前となっていることにもやもやしている人もいるかもしれません。

プライベートな話をする際は、結婚や恋愛観を押し付けない、「彼氏 / 彼女」ではなく「パートナー」などの性別を特定しない言葉を選ぶなど、少しの配慮を心がけることで、無意識に相手を傷つけることを防ぐことができます。

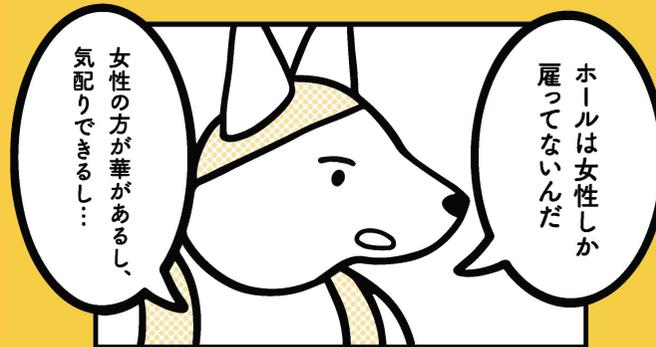


3. 「アルバイトの面接にて」 (高校生 / 男性の方からのエピソード)

大学生の多くがアルバイト経験があるかと思いますが、無意識のうちに男女で任される仕事が変わっていることはありませんか？

このエピソードは、男性だからという理由だけでホールの仕事ができなかったというもやもやがもとになっています。しかし、このように「性別を理由に不当に雇用機会を奪うこと」は法律で禁止されているんです。

仕事上のジェンダー問題というと、女性の労働環境、賃金格差などが注目されやすいですが、このエピソードからはジェンダーに関するステレオタイプは男性の仕事選びや労働環境にも大きく影響していることがわかります。



4. 「男性の収入」 (大学生 / 男性の方からのエピソード)

日本の男女間における賃金格差問題はあるものの、「男なら女より稼ぐべきだ」という固定観念を無意識のうちに誰かに押し付けられたり、押し付けたりしたことはありませんか？

夫は外で働いて家族の大黒柱となり、妻は家事育児をするというステレオタイプは、女性の社会進出の障壁になっていると言われることが多いです。しかし、男性も同様にこのステレオタイプにプレッシャーを感じていることもあります。

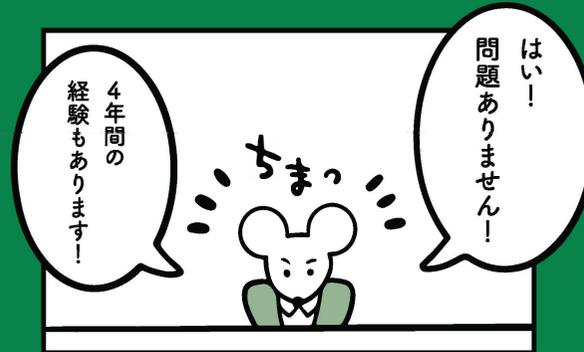
性別による役割分担に対するもやもやは男女問わず多く寄せられ、多くの方が日常的に不快感や疑問を抱いているのだとわかりました。



5. 「女性のキャリア」 (大学生 / 女性の方、その他 / 女性の方からのエピソード)

キャリアや将来のあり方に関して、性別による役割が押し付けられることがしばしばあります。そしてそのようなことは日常的な出来事から人生を左右してしまうような出来事まで様々なものが挙げられます。

このエピソードは実際採用面接で 1 コマ目のような質問をされた経験をもとに作られました。他にも「海外で働きたい」と話した際に男女によって異なる反応を受けた経験、将来の夢として「ハーレーみたいな大きいバイクを運転すること」や「バーテンダーになること」を挙げた際、「女の子なのに?!」と驚かれたり否定的な言葉を投げかけられたりしたというもやもやエピソードが集まりました。

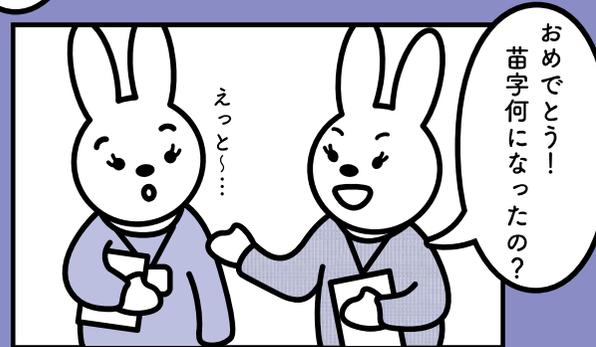
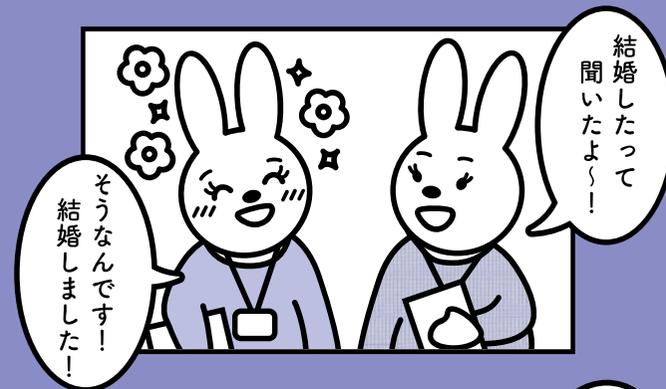


6. 「女性の改姓」 (大学生 / 女性の方、高校生 / 女性の方からのエピソード)

登場人物はどちらも女性です。日本では、「結婚」=「女性が改姓」という思い込みは無意識にあります。女性が改姓することで、カードやパスポート、免許証の名義変更など面倒な手続きを女性が行わなければならないことも。

他にも、会員登録などで事前に設定する秘密の質問に「母親の旧姓は？」という質問がある反面、「父親の旧姓」の質問は珍しいです。最近では、夫婦別姓も聞くようになりましたが、未だ法律上認められていません。

日本でも、夫婦別姓や、結婚する際女性側の姓を選択することがあっても良いはずですよ。



7. 「親戚の集まりにて」 (大学生 / 女性の方からのエピソード)

夏休みや年末、親戚で集まると女性ばかり働いていた、という思い出はありませんか？

集まったもやもやには、「小さい頃に男の子のいところは遊んでいる中、女の子だからという理由で自分だけお手伝いをさせられた」、「親戚の集まりで女性しか準備をせず、男性は座ってばかりで手伝おうともしない」という回答が複数ありました。

今度、親戚で集まった時には、性別に関係なく手伝いを頼んだり、自分から率先して準備に加わり、周りの参加を促す空気を作ったりすることでこのもやもやの解決につながるかもしれません。



8. 「男性の育休取得」 (大学生 / 女性の方からのエピソード)

男性が子育てを行うことが、特別と感じられる表現や、評価される風潮にもやっとしちゃいます。そもそも育児は二人で行うことなのに、男性が「手伝う」「参加する」「協力する」という表現が使われることに違和感を抱きます。

「イクメン」が新語・流行語大賞に選ばれたのは 2010 年のことですが、男性が働いて女性が家事・育児をするというステレオタイプが未だにあるような気がします。

男性も女性もお互いに協力しながら家事・育児に取り組むことで、それぞれが自分の望むキャリアを築ける社会にしていきたいものです。



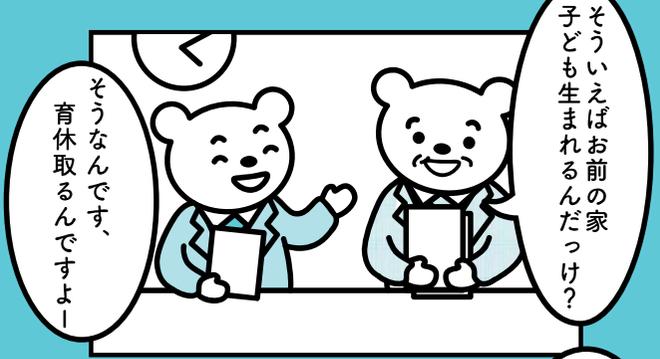
会社説明会にて

弊社の育休制度は
充実しています…



終了後…

実際さあ、男に
家事育児まで
求められても
無理だよな笑



そういえばお前の家
子ども生まれるんだっけ？

そうなんです、
育休取るんですよー



そうか、
手伝いちゃんと
やるんだぞ

じゃあ疲れ

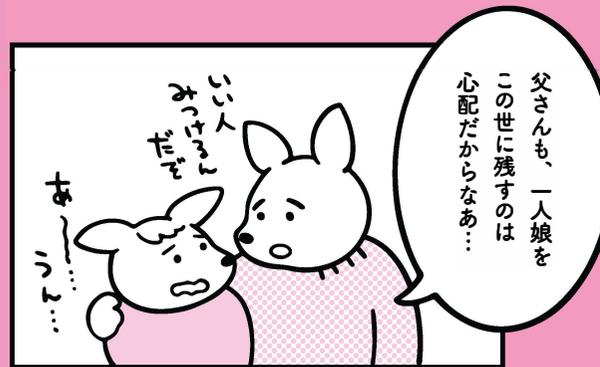
手伝う…？

9. 「結婚や出産のプレッシャー」 (大学生 / ノンバイナリーの方からのエピソード)

「結婚」「出産」「子育て」にまつわるもやもやも多数ありました。その中でも世代間による価値観のすれ違いに起因するものが目立ちました。

「結婚」に関しては、海外に行こうとして危ないと反対された際に「(何かあった時) 責任は親にある。結婚して旦那がいいっていうならやればいい」と言われたエピソードもあり、家父長制に基づく考えは今でも根強いようです。

「性と生殖に関する健康と権利 (SRHR: Sexual Reproductive Health and Rights)」で掲げられている、産むか産まないか、何人子どもを持つかといった「出産」に関する決定権は女性(産む性)にあります。それは他者を尊重して、良好で幸せな人間関係を築くためにすべての人にとって大切な権利です!



10. 「STEAM」 (大学生 / 女性の方からのエピソード)

「女子は理系に進まなくていいと言われた」「理系に進む女子が少ないのは本人の自信ややる気の問題と言われた (実際には周囲からの反対で諦めたケースもあるにもかかわらず)」といった回答が複数ありました。

STEAM^{*}分野で女性が活躍しにくい背景には、「女子は理系が苦手」というステレオタイプや女性ロールモデルの少なさ、女性活躍に対するプレッシャーなどが挙げられます。日本の女性の理工系大卒者の割合は3割程度で、OECD加盟国の中でも最下位と、国際的に見ても非常に少ないです。

* STEAM とは、Science, Technology, Engineering, Art and Mathematics の頭文字をとった造語。いわゆる理系分野を指す言葉。

